

# 形成外科学

担当指導医師

●本院

教授：櫻庭 実

特任准教授：本多 孝之

助教：小野寺 文、三橋 伸行、山崎 友和（任期付）

非常勤講師：本庄 省五、白石 直人、林 正康、樋口 浩文

学修方針（実習概要等）：

指導医と共に形成外科疾患の病態の把握・手術計画・手術・術後管理を体験し、先天異常・外傷・腫瘍等の臨床に即した形成外科学の基本的知識と形成外科的思考法の習得を目的とする。

教育成果（アウトカム）：

クリニカルクラークシップ形式に準拠し、外来、病棟、手術室で実際の診療に触れることで、初期臨床研修医あるいは研究医としての業務遂行に必要な形成外科的な基礎知識および問題解決能力を習得する。PBL(Problem Based Learning)やTBL(Team Based Learning)等のグループ作業を通じてコミュニケーションスキルの向上を図ることで、医療従事者、患者、家族などの質問や助言に真摯に耳を傾けることが出来る対話能力および総合的学力を身につける。

（ディプロマポリシー：2,3,4）

到達目標（SBOs）：

- \* 1. 形成外科で取り扱う疾患について、局所解剖に基づいた形成外科的治療を理解し説明することができる。
- \* 2. 皮膚・皮下組織の解剖と、創傷治癒の機序を理解し説明することができる。
- \* 3. 基本的縫合手技、植皮術、皮弁移植などの適応、手技について理解し活用することができる。
- \* 4. 手指/顔面外傷と熱傷、難治性潰瘍などの皮膚・軟部組織損傷の診断・初期治療について説明できる。
- \* 5. 解剖に基づく顔面骨骨折の症状を理解し、その診断（視診・触診・画像診断）ができる。
  - 6. 代表的皮膚、軟部腫瘍の診断・治療法について説明できる。
  - 7. 先天異常に対する診断・治療法の概要を説明できる。
  - 8. マイクロサージャリーに関する基礎的知識と理解を深め説明する事ができる。
  - 9. 悪性腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。
  - 10. がん診療における形成外科の役割について説明できる。
  - 11. カンファレンスでのプレゼンテーションができる。

## 実習内容：

1. 1～2名の入院患者を指導医と共に受け持ち、問診・触診などの診療を経験する。必要な術前諸検査の計画と実施、手術計画の立案、術前検討会でのプレゼンテーション、術前の患者および家族への説明、手術助手としての参加、術後の患者および家族への説明、術後管理、創処置、退院後の生活指導等の全ての医療行為に携わり、他職種との連携をも体験し、チームとしての形成外科疾患治療の流れを経験し理解する。最終の週末には担当患者の経過、概要について各自が報告する。
2. 指導医と行動を共にして、担当患者以外の患者の検査、画像診断、入院手術、外来小手術、救急患者の創傷処置等への対応を経験する。
3. 新患および再来の外来診察において、診断及び治療方針の説明、術後経過観察等を通して、医師と患者の良好なる人間関係はどうあるべきかを学ぶ。
4. 医局の諸行事（術前検討会、カンファランス等）に参加する。

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診療用機械	赤外線サーモグラフィ(CPA-0150A)	1	臨床実習用
診療用機械	頭蓋骨 22 分割キット(A291)	1	臨床実習における症例検討
診断用機械	ミニドップ (ES-100VX)	1	臨床実習における皮膚血行評価
診断用機械	鼻咽腔ファイバー	1	鼻咽腔閉鎖機能不全の診断
診断用機械	皮膚良性色素性疾患用レーザー	1	異常色素細胞の組織学的検討
診断用機械	皮下酸素飽和度計	1	皮弁血流の検討
診断用機械	ドップラー血流計	1	血流測定
実習用機械	赤外観察カメラシステム (PDEシステム)	1	リンパ管実習
実習用機械	頭蓋骨モデル	1	顔面症例の説明・講義
実習用機械	血管吻合用実体顕微鏡 (DV4)	1	臨床実習用
実習用機械	実体顕微鏡 M60 一式(M60)	1	研究室配属、臨床実習での体験、修得
実習用機械	マイクロ実体顕微鏡	1	高次臨床実習にて使用